

## 週日の説教（初金・癒しのミサ）

金 大烈 神父 2010年8月6日（金）

### 《重荷は見る目によって変わる》

主の平和

ある人が、自分の背負っている荷があまりにも重くて神様に文句を言います。「主よ、他の人の荷を見たら自分のものより軽く見えるのですが、何故私だけに、このような重荷を背負わせるのでしょうか。」という文句でした。その話を聞いた神様は「あなたはそのように思っているのか。では、私と一緒に来て見なさい。」とおっしゃってある所へ連れて行きました。

そこには大きな蔵がありました。「さあ、自分が気に入る荷を選びなさい。」と言って、蔵の戸を開けたら数え切れない程、沢山の荷が積もっていました。文句を言ったその人は一生懸命に自分に合う荷を探しました。一日中探しましたが、殆どが重い荷ばかりで、自分には耐えられないものばかりでした。夜どうして探して、やっと自分に合った荷が目に入りました。それで持ち上げてみたらやっぱり今までのものより軽かったです。「を見つけました、これです。」と言ったら神様は笑顔で「それがあなたに合うと思うのなら、その荷を背負って歩いてみなさい。」それで、その人は荷を背負ってあちこち歩き回って、しまいには走って見せました。そして神様に言いました。「ご覧になって下さい。こんなに軽い荷があったのに、今まで何故私に重い荷を下さったのでしょうか。」と。それに対して神様はその荷を開けてみるように言いました。開いてみたらその荷は今まで自分が背負って来たものでした。そして、その荷が、今まで自分が背負って来た荷である事が分かったその人は、「本当に私が悪かったです。申し訳ございません。」と言い、その時から受け入れる気持で、どんな難しさがあっても、感謝しながらその荷を背負って歩いたという話です。誰かの作り話かも知れませんが、結構、意味がある話だとも思います。

癒しのミサと私達は言っていますよね。治癒のミサ。これをいろいろな角度から皆様にお話してきましたが、今日は癒しのミサとは、“苦痛、痛みをどのような目で、どのような視覚で見るかによって変わる”ことを皆様にも申し上げたかったです。

私達は、他人の痛みが「死に至る病気だ」と言われても、それを具体的には感じられません。しかし、誰かに「それは病気じゃないよ」と、本当に軽いものだと言われても、自分が感じる痛みは他の痛みと比べられない痛みです。それがひとつの人間の弱さかも知れませんが、私達は死ぬ時までいつもその痛みの中に生きる方法しかありません。よく振り返って見て下さい。今までの人生で、何ひとつ痛みのなかった時がどのくらいあったのでしょうか。「私にはそのような痛みはなかったですよ。」と言う人でも水虫ぐらいはあったでしょう。必ず不便な所があります。そして、「本当に不思議だけれど全然痛い所がないのです。」と言いながらもどこかに痛みが隠れています。少なくとも心が痛いのです。ですから結局、私達の人生は、「その荷がただの荷か、背負える荷か、そうではなくてその

荷が負担として重荷として考えてしまう荷か」を私達がどのように見るか、受け取るかによって変わってくると思います。

皆様、私は今日ミサを始める前に、「神様と一対一の気持でこのミサに与かって下さい」と申しあげました。そしてもうひとつ、「ご自分の横にいる方は皆天使だと思って、そして、神様の御前でミサに与っている気持でいて下さい。」と申し上げたいのです。

今日、癒しのミサという名目で、その意向で私達は集まりました。そして、私がお願いしたい事は、体の変化、それを一時的に私達は信じなければなりません。神様の御手の体験をするように願うのは当たり前のことです。しかし、それを乗り越えて「自分に与えられている痛みを信仰の目でどのようにみればいいのか悟らせて下さい。」という願いが、何よりも必要ではないかと思います。それを乗り越えられるその力、全然変わらないその力、その力を頂こうとするのが、このミサに与っている一番大きな目的ではないかと思います。そして何よりも「私達が受け入れるその心によって癒されるのかそうではないかが決まる。」と私が申し上げた事を、皆様が覚えていらっしゃると思います。

今日もイエス様が奇跡を行って下さると私は信じます。奇跡は奇跡としてこの私達の所で起きるように、私達が協力しなければいけません。その奇跡、その癒しの働きのために、私達の心をもっと広く開いてイエス様を迎えましょう。

ありがとうございました。